

森林整備Ⅲ

森林と地球環境（土壌と樹木根系～実習）

日時：平成27年11月28日（土） 10:00～15:00

講師：平野 恭弘（名古屋大学大学院環境学研究科准教授）

概況



科目名：森林整備Ⅲ

森林と地球環境（土壌と樹木根系～実習）

講師：名古屋大学大学院環境学研究科 平野恭弘 准教授

○第1時限 10時から12時まで 座学

・森林の地下部における生態系について講義が行われた。その中で、森林生態系と生態系サービスの説明として「自然からの恵み」という言葉が使われた。この恵みが「森林の多面的機能」と「公益的機能」を指す。生態系サービスには、①食糧や燃料に代表される供給サービス、②洪水の制御や水の浄化に代表される調整サービス、③教育やレクリエーションの場に代表される文化的サービスがあり、これらのサービスを支える基盤として栄養塩の循環や土壌の形成に根の働きが大きいとされた。土壌のでき方、8つのタイプに分類できる日本の森林土壌、温帯に生育する樹木（樹高20m）の根の大きさ（根の広がり約7m、深さは最深でも4m）等が紹介された。また、太い根と細い根の役割が解説された。講義の中で受講生一人一人が取り組んだ一本の木（地上部から根まで）のイメージは如何に正しく根を理解していないかを改めて認識するものとなった。

○第2時限 13時から15時 実習

・吉田川沿いの広葉樹が生育している土壌断面と根から実習が行われた。特に、アオキの根は細い根でも5mm程度と太く、コナラの細い根との違いは興味深いものであった。

・また、ヒノキの生育している土壌は広葉樹の土壌と異なり、根がマット状に固まって

いるルートマットと呼ばれる構造が紹介された。さらに、ヒノキの根として旺盛に働いている細い根は薄いピンクをした実に美しいものであった。改めて、土壌は命溢れる世界であることを知った。